

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名		ディプロマ・ポリシー	主要授業科目	【1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力】	【2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲】	【3. 国際的発信力及び社会貢献】	科目の教育目標	
				数学・応用数学・数理情報に基づいた論理的な分析能力と課題探求・解決能力、さらに社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を有する。	コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、情報発信能力を有し、数理科学に関する諸問題について分析する能力、及び自発的に課題を設定する能力や問題を解決する能力を有する。	数理科学に関する諸問題を様々な視点から考察でき、高い見識と倫理観を持ち、地域社会や国際社会の中で指導的役割を果たすことのできる能力を有する。		
研究科共通科目	研究科基盤教育科目	データサイエンス	○	○	○		1. データの性質を見極め、データから課題解決に役立つ情報を抽出できる 2. データに基づいて問題を考察し解決するプロセスを体験する 3. 専門の異なる人と協働して問題解決できる	
	グローバル教育科目群	国際協力論					◎	・文化を異にする地域に技術移転するには、その技術を受容する社会の文脈理解が必要であるということを理解する。 ・グローバルな状況のなかで技術を社会実装するために必要な社会科学的知識やスキルを身につける。
		グローバル社会文化論					◎	・グローバル社会に対応できる国際的な視点を身につけている。 ・グローバル化社会の課題について理解している。 ・グローバル化する文化について理解している。
		グローバルコミュニケーションA				○	○	
		グローバルコミュニケーションB				○	○	1. 世界の先端技術・科学に関する専門的内容を学修し、国際的な技術動向や科学の実について理解を深める。 2. 先端技術・科学に関する専門的内容を英語で理解し、英語による表現力やプレゼンテーション力を深める。
		グローバルコミュニケーションC				○	○	1. 先端技術・科学に関する専門的内容を学修し、外国の技術動向や産業の実情について理解を深める。 2. 先端技術・科学に関する専門的内容を理解し、英語によるコミュニケーション力を身につける。
	イノベーション教育科目群	科学技術論A				○	○	1. 自らの専門とは異なる分野の問題の所在を説明できる。 2. 自らの専門とは異なる分野の問題について解決へのアプローチや評価の仕方を説明できる。
		科学技術論B				○	○	1. 自らの専門とは異なる分野の問題の所在を説明できる。 2. 自らの専門とは異なる分野の問題について解決へのアプローチや評価の仕方を説明できる。
		科学技術論D				○	○	1. 自らの専門とは異なる分野の問題の所在を説明できる。 2. 自らの専門とは異なる分野の問題について解決へのアプローチや評価の仕方を説明できる。
		科学技術論E				○	○	1. 技術・科学に関する最新研究の知識を英語で習得する。 2. 異なる分野の問題の所在と、その解決へのアプローチを理解する。
		ビジネスモデル特論				○	○	1. 技術や資源を活用したビジネスモデルの基礎的知識を習得する。 2. ビジネスプランを作成し、その内容を伝える能力を習得する。
		地域企業エクスターンシップ				○	◎	徳島地域における企業・団体等の先端的な取り組みについて、講演、対話を通じて学び、地域における科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる能力を修得する
		実践型地域インターンシップ				○	◎	徳島地域の企業・団体等における中長期的な経営課題の解決方法について、グループによるプロジェクトとして取り組むことで、地域における科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる能力を修得する。
	理工学専攻共通科目	インターンシップ(M)				○	○	1. 組織の仕組みや業務の流れ、組織目標を達成するための戦略と実践を理解する。 2. 実社会、職場における人間関係やマナーなどに対する理解を深める。
		離散数学特論	○	◎				グラフの諸概念（各種連結度、各種埋込、各種演算等）に関する結果・手法を理解し、かつそれらを具体的なグラフに適用することができる。
力学系数理特論		○	◎	○			1. 離散的な力学系の軌道について理解する。 2. 分岐の仕組みについて理解する。 3. 単純なモデルであっても、非線形な現象は複雑であることを理解する。 4. 現象が複雑になっていく過程を理解する。	
代数幾何学特論		○	○	○			1. 写像のホモトピーと基本群の定義を説明できる。 2. ファン・カンペンの定理を理解し、簡単な位相空間の基本群を計算できる。	

科目名	ディプロマ・ポリシー	主要授業科目	【1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力】	【2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲】	【3. 国際的発信能力及び社会貢献】	科目の教育目標	
			数学・応用数学・数理情報の基礎知識を基にした論理的分析能力と課題探求・解決能力、さらに社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を有する。	コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、情報発信能力を有し、数理科学に関する諸問題について分析する能力、及び自発的に課題を設定する能力や問題を解決する能力を有する。	数理科学に関する諸問題を様々な視点から考察でき、高い見識と倫理観を持ち、地域社会や国際社会の中で指導的役割を果たすことのできる能力を有する。		
所属基盤コース専門科目 ・教育クラスター科目	数理科学コース	情報数理特論	○	◎	◎	○	離散数学、グラフ理論について学び、実際に情報システムの構築や構造分析するために必要となる手法を身につける。
		代数構造特論	○	◎	○		1. 環と加群についての専門知識を高める。 2. Ext群、Tor群といったホモロジー代数における基本的な概念を理解する。 3. ホモロジー代数的な手法を簡単な問題に応用できる。
		現象数理解析特論		◎	◎		1. 数理モデルについての専門知識を高める。 2. 微分方程式の解析方法を身につける。 3. 現象と数学解析の関係について説明できる。
		数理大域解析特論	○	◎	◎		1. 微分方程式の初等解析を応用できる。 2. 関数空間の基本事項についての専門知識を高める。 3. 大域解析学の理論についての専門知識を高める。
		非線形現象解析特論	○	◎	○		1. 微分方程式の平衡点の安定性を判別できる。 2. 微分方程式の周期軌道の分岐現象を解析できる。
		確率計画法特論	○	○	○		1. 不確実性を伴う現象を数理モデルによって理解・表現できる。 2. 定式化された問題を数学・情報科学の知識・技術に基づき求解できる。 3. 得られた解の問題に対する有効性を数学・情報科学の知識に基づき評価できる。
		関数方程式特論	○	◎	○		放物型方程式の様々な解法を理解し、簡単な問題に適用できるようになる。
		微分幾何学特論		◎		◎	非常に性質の良い幾何学的対象であるため応用範囲の広い可微分多様体について講述し、数理的な考え方の有効性や汎用性を理解する。また数式処理ソフトを援用し、数理的思考方を幾何的に説明する能力を身につけることを目標とする。
教育クラスター科目	理工学専攻	計算数理特論	○	◎	○		1. 数値データに対して、補間法や最小2乗法を用いてデータ処理ができる。 2. 任意の格子点を用いた高精度の差分公式を作成できる。 3. 講義で取り上げた基本的な数値計算法を実用問題に適用できる。
		応用代数特論	○	○	○		1. 具体的な問題から抽象的な現代数学が生み出された過程について例示できる。 2. 証明や計算のために開発された数学的な道具やアルゴリズムなどの有用性を説明できる。
		数理解析方法論		◎	◎	◎	様々な数値計算法について、基本的な考え方および手法を身につけ、簡単な物理現象の数値解析が出来る。
		偏微分方程式特論	○	◎			様々な偏微分方程式の入門的な取り扱いを学ぶことで、解析学の様々な手法を身につける。
		代数学特論	○	◎	○		有限個の数からなる数の体系である、有限体の基礎を理解する。 有限体における演算に親しみ、様々な性質を理解する。
		応用解析学特論	○	○			1. 関数解析的手法による基本的な理論展開に適応する。 2. 微分方程式への関数解析的手法の有用性を説明する。
		数学解析特論	○	◎	○	○	1. 微分方程式や差分方程式の局所解の構成や漸近展開を計算できる。 2. 微分方程式や差分方程式の大域解析の理論を説明できる。 3. 関数方程式の背後にある代数構造や幾何学との関係を説明できる。
		課題解決型インターンシップ(M)			○	○	企業との共同研究や、それを通じたベンチャービジネスおよび地域連携活動へ展開した経験・知識を有すること。
	アプリケーション実装実習			◎		コンピューターアプリケーション開発ツールを利用して、アプリケーション開発の方法を学び、実際に実装を行う実習を通じて、コンピューターを利活用する能力を身につける。	
他コース科目			○				
他専攻科目			○				

科目名	ディプロマ・ポリシー		主要授業科目	【1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力】	【2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲】	【3. 国際的発信力及び社会貢献】	科目の教育目標
				数学・応用数学・数理情報に基づいた論理的分析能力と課題探求・解決能力、さらに社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を有する。	コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、情報発信能力を有し、数理学に関する諸問題について分析する能力、及び自発的に課題を設定する能力や問題を解決する能力を有する。	数理学に関する諸問題を様々な視点から考察でき、高い見識と倫理観を持ち、地域社会や国際社会の中で指導的役割を果たすことのできる能力を有する。	
学位論文指導科目	理工学特別実習	○	◎	◎	○	修士論文の研究進捗状況について、基盤コースを中心とした中間発表を行い、基盤専門分野の教員・学生との討議を行う。これにより、主たる専門分野から見た自らの研究の立ち位置を明確にする。また、学生は1年次の間に複数の分野の中間発表会への参加や研究室訪問を行う。説明内容や討議内容などを踏まえ、訪問した学生によって訪問先の学生の評価が行われる。評価される側の学生は、このような専門外の人物との意見交換を通じて自らの研究テーマに関する情報・知識を多角的に捉える能力を養い、自らの専門性の深化を促す。一方、訪問した学生は、そこで収集した情報をレポート等でまとめ、それが訪問先の教員・学生によって評価される。それによって双方向のコミュニケーション能力の向上を図る。	
	数理学特別輪講	○	◎	◎		1. 研究テーマに関連する文献等を熟読し専門知識を深める。 2. 文献等を講読して得た知識を紹介するとともにその内容について討議できる。 3. 研究テーマに関する様々な情報を多角的な観点から把握・説明できる能力を身につける。	
	数理学特別研究	○	◎	◎	◎	各自が設定した研究テーマに対して、適切な研究計画を立案し、それに従って研究を遂行し、その結果を論文としてまとめることができるとともに、その成果を口頭で発表できる。	